

オーケストラ シンフォニカ 東京

第 36 回

定期演奏会

平成 7 年 4 月 18 日 (火) 午後 7:00 開演

浜 離 宮 朝 日 ホ ー ル



プログラム

第 1 部

指揮：石 黒 不二夫

ラジオ放送作品 第2集

武 井 守 成

古き子守歌
木の実は躍る
ゆれる一輪の花
微風(そよかぜ)

交響詩 み す ず

赤 城 淳

緑色の流れ
安曇野旅情
西山遠望

第 2 部

指揮：山 本 雅 三

トカイ(チャールダーシュ)

A. H. クラーセンス

カイロの思い出

G. マネンテ

サマータイム イン ヴェニス

A. イチャーニ
(編曲：中川信良)

[休憩]

第 3 部

指揮：石 黒 不二夫

カルメン組曲

G. ビゼー
(編曲：赤城 淳)

- (1) 前奏曲
- (2) アラゴネイズ
- (3) 間奏曲
- (4) ハバネラ
- (5) フィナーレ

単楽章の交響曲

K. ヴェルキ
(編曲：高野吉司)

曲 目 解 説

第 1 部

ラジオ放送作品 第 2 集

武 井 守 成 (1890~1949)

武井守成は終戦直後の昭和21~22年頃、NHKラジオ放送の録音の為、4曲づつ自作から選び2組のメドレー曲を編曲した。作者はこのメドレー曲に題名をつけず、“pezzo per Radio”(ラジオ放送の為の小品)、或は「お休み番組録音用」として居ったが、何時の頃からか、OSTでは「ラジオ放送作品第1集・第2集」と呼ぶようになった。編曲ではフルート、クラリネットをソロマンドリンで代替し、又曲のつなぎの部分で若干手を加えたり数小節を省略しているが、これを演奏会用として原曲通りの編成で管楽器を復活して演奏します。

交響詩 みすず

赤 城 淳 (1919~)

作者から次の様な解説を戴きました。

信州大学マンドリンクラブの委嘱を受けた1982年度作品。“信州に関係のある題材で”……との依頼で、馴染み深い川、山村風景、それに山と、三つの楽章にまとめあげた。

「緑色の流れ」 亡父 赤城泰舒の出世作品、大正13年に上高地・河童橋から梓川の清流を画いた水彩画の題名を流用した。あえて同名を使用したのは、あの梓川の眺めを表現するのに、最も適していると考えたのに他ならない。

「安曇野旅情」 安曇野には常念岳の双子峰がつきものだ。それに辻々に祭られる双体道祖神、わさび田の清冷な水、杏の花など、静けさは あくまでも旅人の旅情をそゝる。

「西山遠望」 北信州の人々はアルプスの峰々を西山(にしやま)と呼ぶ。殊に印象的なのは志賀高原からの遠望で、ある時は坊寺の山頂から、或は横手山頂からの息を飲む様な大観は、鮮明に脳裏に焼きついている。なかでも戦前昭和17年、転地療養のため滞在していた発哺(ホッポ)温泉の、湯舟に浸かって眺めた西山に沈む太陽の姿は、正に千両役者であった。黒々と連なる西山の稜線、刻々と変って行く空の色、燦々と輝やいでいた真っ赤な太陽が、稜線に触れるや否や急激に輝きを失い、遂に光の点となり消え去り、途端にアンコールのように暮なずむ空には、阿弥陀如来来迎かと思わせる後光が広がる。それも一瞬にして薄れると同時に“待ってました”と許りに満天の星が瞬き出す。まさに自然が醸し出す一大ページェントである。

付記：因みに亡父 赤城泰舒は大正13年、当時“シンフォニカ 東京”の前身“オルケストラ シンフォニカ タケイ”に在籍、同年12月にはカラーチェ氏訪日、同氏の指揮による演奏会でも第2マンドリンに座る写真が残されている。

第 2 部

第2部は街の名を冠した小品3曲を集めました。いずれもその地方の雰囲気に満ち、エキゾチックな曲想を湛えています。 マンドリン・ギターといった撥弦楽器が、元来持っている民族楽器としての特徴を十分に生かした曲たちと言えましょう。

ト カ イ (チャールダーシュ)

A. H. クラーセンス (1910~ ?)

「トカイ」はスロヴァキア・ウクライナに近いハンガリー北東部の町で、この葡萄酒は世界的に有名です。この曲は元々ジプシーより発祥し、ハンガリー音楽として名高い“チャールダーシュ”という民俗舞曲の形式で書かれています。 静かで哀愁を帯びた導入部(ラッサン)と、激しく情熱的な主部(フリスカ)のコントラストが鮮明で、躍動的なシンコペーションが刺激的です。

尚作者 クラーセンスは1910年生れのオランダの作曲家・マンドリン演奏家です。

カイロの思い出

G. マネンテ (1867~1941)

「カイロ」はエジプトの首都であり、アフリカ・中近東最大の都市です。この曲は作曲者のマネンテがエジプトから招かれ、1921年に国王 ファド・パシャの宮廷付楽団の指揮者となって作曲した作品の一つで、1922年に作者自身の手によってマンドリン合奏曲に編曲されました。

ギターパートとしては珍らしく和音が全くない中近東風のリズム進行の上に、アラビア風のエキゾチックな旋律が重なります。

マネンテは主にイタリア軍楽隊の楽長として作品を書く傍ら、1900年前後のイタリアに於けるマンドリン興隆期に当り、マンドリン音楽にも多大な関心を寄せ、「メリアの平原に立ちて」・「マンドリン芸術」・「晩秋」など、多くの重要なマンドリン オリジナル曲を作曲しております。

サマータイム イン ヴェニス

A. イチーニ (1906~ ?)

「ヴェニス」はイタリア北部、アドリア海の潟湖に浮かぶ118の小島を橋で結んだ都市。この有名な水の都を舞台にした1955年の映画「旅情」のテーマ曲です。名女優キャサリン・ヘップバーン扮する一人旅のアメリカ女性と、街で知り合った銀髪の中年紳士との切なく、はかない恋。印象的なこの曲が雰囲気盛り上げていました。

作曲者はデ・シーカ監督の「自転車泥棒」・「終着駅」などで音楽を担当したイタリア映画音楽界の重鎮 アレッサンドロ・チコニーニで、イチーニはペンネームです。

第 3 部

カルメン組曲

G. ビゼー (1838~1875)

歌劇「カルメン」全4幕の主要な曲10曲を集めて、でき上がったカルメン組曲は第1組曲と第2組曲に分れている。第1組曲は前奏曲と間奏曲を集めた5曲。第2組曲は劇中の声楽曲を管弦楽用に編曲したもの5曲である。本日は、第1組曲より — 第2幕間奏曲 アルカラの竜騎兵 — を除く4曲と、代りに第2組曲のハバネラを加えた編集で、赤城 淳氏の編曲により演奏します。尚、組曲の配列は幕の順序通りでないが、解説もプログラムの曲順に従っておりません。

(5) フィナーレ …… 第1幕前奏曲その1

(1) 前 奏 曲 …… 第1幕前奏曲その2

第1幕前奏曲は二つの曲から成っている。

初めの曲は、ご存知の賑やかな熱狂的な曲で、この激しい旋律は第4幕の闘牛士の行進曲であり、それに続くトリオの部分は同じく第4幕中の有名な闘牛士の歌の旋律である。そして再び賑やかな音楽になり最高調に達して パツと終る。こゝ迄が一前奏曲その1— で、組曲では(5)フィナーレ〔終曲〕になっている。

さて、一呼吸置いて次の曲が始まる。がらりと気分が変わって、ゆっくりした無気味な重苦しい旋律 — この旋律は「運命の主題」と呼ばれているもので、カルメンの運命、特にその悲劇的な結末を予言するもので28小節の短かい曲。この主題は劇の進行中姿を変えて屢々現われる。

これが — 前奏曲その2 — で、組曲では(I)前奏曲 (Prelude) で最初に演奏される。

(2) アラゴネイズ …… 第4幕間奏曲

華やかな3拍子の舞曲。この旋律はスペイン南部アンダルシア地方の民族舞曲から採ったものと云われているが、リズムは北東部アラゴン地方の民族舞踊ホタに類似している …… とも云える。

組曲の第2番に置かれている。

(3) 間奏曲……第3幕間奏曲

この間奏曲は非常に牧歌的な音楽で、歌劇の気分を一新する。ハーブの伴奏フルートのソロで始まるが、ギターの分散和音がハーブの代りに効果的に使われている。

組曲では(3)間奏曲(Entr'acte)になっている。

(4) ハバネラ

第1幕、カルメンがホセの歓心をそゝる為に色っぽく歌う。「恋は野の小鳥のように気まゝ……」の歌は激情的で陽気でありながら、どこかに残忍性を思わせるカルメンの性格を、聴く人の心に描き出させてくれる。

尚、初演の時、カルメン役の歌手ガリ・マリエは再三この歌に「ダメ」を出し、ビゼーはその都度曲を書き直して13回目に漸くこのアリアに辿りついた……という逸話が残されている。

ハバネラとは…キューバのハバナ島に起源をもつ、2/4拍子のゆっくりしたテンポで、タンゴと同じ特徴のあるリズムを持つ舞曲のことです。

単楽章の交響曲

K. ヴェルキ (1904~1983)

交響的楽曲ホ短調という別名を持つこの曲は、初期のヴェルキが好んで作った所謂“Grosses Mandolin Orchester”即ち“木管・金管・打楽器を編成に加えることの出来る大マンドリン オーケストラ作品”の一つで1929年(昭和4年)の作である。

ドイツに於ては、この種の大編成オリジナル作品は昭和10年頃までが全盛期で、第2次大戦後はドイツMO界の古典傾向への復帰など趨勢の変化により主流たり得なくなった様である。しかし日本では現在でも人気があり、演奏回数順位の上位を占めている曲も多い。

OSTでは昭和61年(1986)高野吉司氏の編曲指揮により演奏されているが、今回も此の高野氏のフルート・クラリネット・打楽器を加えた編曲で演奏します。

原曲は上記2管の外にファゴット・オーボエ・ホルンを加えた5管編成になっています。

加除式法規書・法令解説書出版

中央法規出版株式会社

本社 〒151 東京都渋谷区代々木2-27-4 電話(3379)3861(代表)
営業所 札幌・仙台・岐阜・大阪・広島・福岡

山本ミュージックコーナー

〒164 中野区東中野1-43-7 JR東中野駅東口南下車3分 TEL(3363)9893

取扱品目

- ★ 手工マンドリン・ギター各種
- ★ 各社マンドリン・ギター
- ★ マンドリン・ギター用弦及附属品

お気軽にお立ち寄り下さい。

マンドリン教室

平山英三郎先生

ギター教室

平山英三郎先生

指	揮：*石 黒 不二夫	コンサートマスター： *肥 沼 成 明		
	: *山 本 雅 三		*本 間 輝 樹	
第一マンドリン：	肥 沼 成 明 本 間 輝 樹	新 居 裕 久 秋 元 興 光	田 島 明 子 中 込 尚 子	村 上 一 二 郎
第二マンドリン：	*岡 田 茂 後 藤 俊 明	藤 田 正 美 深 澤 秋 芳	山 崎 悦 子 坂 井 美 佐 子	横 内 ふ さ 子
マンドラ テノール：	*岩 片 順 子 田 中 俊 文 子	石 井 栄 一 渡 辺 清	玉 木 利 恵 子 高 橋 恭 彦	佐々木 興 治 佐 藤 一 徳
ギ タ ー：	*今 津 章 山 本 雅 三	宮 本 紀 子 城 所 敏 雄	西 原 正 高 橋 悠 介	高 橋 貴 久 子 沢 田 行 雄
マンドチェロ：	鈴 木 功	宮 崎 泰 行	平 山 英 三 郎	高 橋 保 夫
リ ュ ー ト：	*宮 本 皓 永			
マンドローネ：	高 田 三 九 三	*家 城 孝 治		
コントラバス：	佐 藤 正	井 上 善 博		
フル ー ト：	比 護 い づ み			
クラリネット：	佐 藤 道 世			
ピ ア ノ：	浦 畑 晶 子			[* —— 役 員]
打 楽 器：	横 田 大 司			

オルケストラ シンフォニカ 東京 (OST)

代表幹事 今 津 章

事務所：〒241 横浜市旭区中尾町 82-1 ☎045-363-1046